

試験研究成果普及情報

部門	野菜	対象	普及
課題名：コゴミの収穫期間についての系統比較			
<p>[要約] コゴミの系統はその収穫期間により、3月下旬～4月中旬に収穫可能な早生系統、4月上旬～下旬に収穫可能な中生系統、4月下旬～5月上旬に収穫可能な晩生系統に分類できる。これらの系統を組み合わせることで、3月下旬から5月上旬まで1か月余りにわたって収穫できる。</p>			
フリーワード	コゴミ、クサソテツ、山菜、系統、収穫期間		
実施機関名	主 査	農業総合研究センター・暖地園芸研究所・野菜メロン研究室	
	協力機関	夷隅農林振興センター	
実施期間	2005年度～2007年度		

[目的及び背景]

夷隅地域の農業従事者の多くは高齢者及び女性であり、現地からは収穫作業の楽な軽量野菜としてコゴミの導入が望まれている。夷隅地域のコゴミ産地では4月上旬の約1週間に収穫が集中しているため、生産者から生産時期の拡大が要望されている。そこで、県内外からコゴミの系統を集め、各系統の収穫期間を調査することで早生-中生-晩生系統に類別し、それらの系統を組み合わせることで収穫期間の延長と生産量の増大を図る。

[成果内容]

- 1 収穫物である未展開葉数が増加する時期に基づいて、3月下旬～4月中旬に収穫可能な早生系統（横森、新潟、筒森、福島）、4月上旬～下旬に収穫可能な中生系統（宇筒原、八声、富良野、栗山、滋賀、西部田、帯広）、4月下旬～5月上旬に収穫可能な晩生系統（栃木）の3グループに分類できる（図1）。
- 2 収量の多い系統は、早生では4月11日時点で横森、筒森及び新潟系統、中生では4月25日時点で帯広、滋賀及び宇筒原系統である（図2）。
- 3 親株から発生する子株の数は、新潟、筒森及び八声系統が、親株1株当たり3株以上であり、他の系統と比較して多い（図3）。
- 4 未展開葉数の多い早生、中生及び晩生系統を組み合わせることで、3月下旬から5月上旬まで1か月余りにわたって収穫することが可能である（図4）。未展開葉数の収量及び子株の増殖率を考慮した場合、早生では筒森及び新潟、中生では滋賀及び宇筒原の各系統が栽培に適する。

[留意事項]

- 1 子株は収穫可能になるまで3年程度の養成が必要である。
- 2 株の増殖は、ランナーによる子株の自然発生による他、分割したランナーの伏込み及び胞子の培養により大量増殖が可能である（関連文献）。
- 3 日当たりが良く気温が上がりやすい圃場では、夏期に葉の枯れと焼けが発生するた

め、収穫終了後、二番葉が展開を終えたら、寒冷紗、白冷紗等で遮光すると良い。

4 マメコガネが葉を食害することがあるが、登録農薬はないため、被害が目立つようなら捕殺による防除を行う。

[普及対象地域] 県南地域

[行政上の措置]

[普及状況]

夷隅地域だけでなく、安房地域でもコゴミの導入が進んでいる。

[成果の概要]

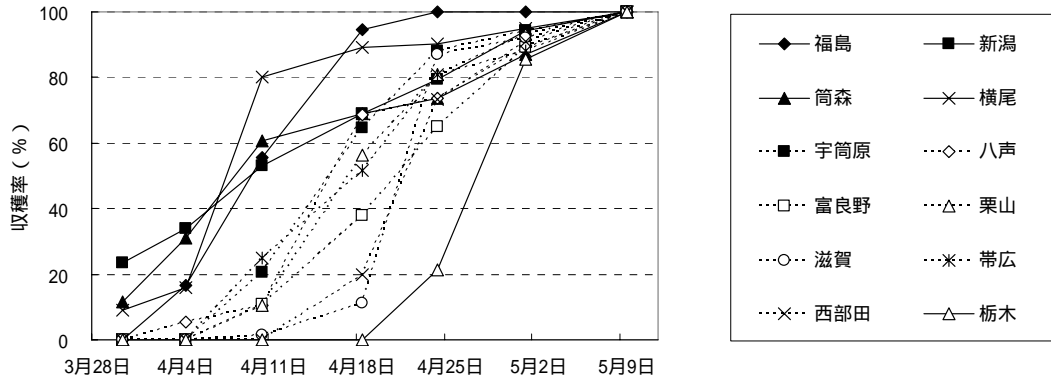


図1 コゴミ各系統の収穫率の推移(平成19年)
注) 収穫率(%) = 累積未展開葉数 / 未展開葉総数 × 100

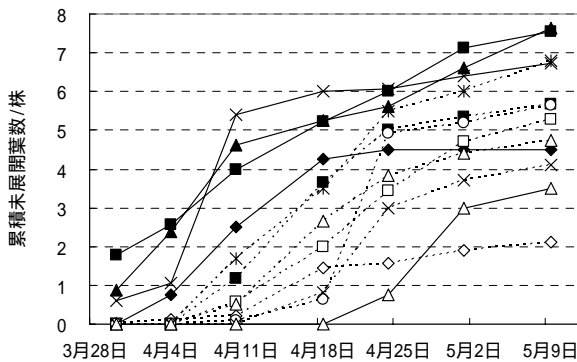


図2 コゴミ各系統の累積未展開葉数の推移(平成19年)

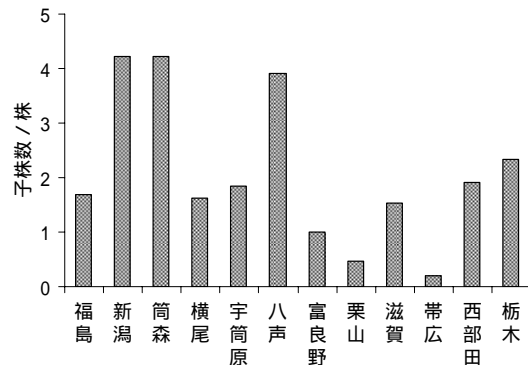


図3 コゴミ各系統の子株数(平成17~19年の平均)

系統	3月		4月		5月	
	中	下	上	中	下	上
福島、新潟、筒森、横尾	[Harvest Period]					
宇筒原、八声、富良野、栗山、滋賀、帯広、西部田	[Harvest Period]					
栃木	[Harvest Period]					

図4 コゴミ各系統の収穫暦

注1) 平成17~19年の試験結果をもとに作成した
2) [] : 収穫最盛期、 [] : 収穫可能期間を示す

[発表及び関連文献]

- 1 平成20年度試験研究成果発表会(野菜部門)
- 2 新特産シリーズ クサソテツ(コゴミ)、阿部清、農山漁村文化協会、2003年

[その他]

平成16年度試験研究要望課題(提起機関: 夷隅農林振興センター)